

羽はたけ! こどもたち

大堀 寛人

⑮

とさせられます。

四一六歳児クラスのこどもたちが、広島市西区の園から三滝寺を通過して竜王公園へハイキングに出掛けた時のこと。JR三滝駅の近くを通過すると、キンモクセイの香りがかすかに漂ってきました。

「何かにおつよ」。香りの元を探して、こどもたちの鼻がピクピク動きます。一人が「あつ、おじいちゃんのおうちにおいだ」。「おじいちゃんのおうちに…キンモクセイが咲いているんだね」と先生。こどもたちはしゃがみこみ、

黄色い花をせっせと拾い集めます。キンモクセイの香りと

おじいちゃんのイメージが重なり合い、「おじいちゃんのおうちにおい」という表現にたどり着いたのでしよう。

ちゅーりっぷのこどもたちから、ユニークな会話が生まれるのは、五感を働かせる「遊び」の積み重ねがあるからです。親との会話や絵本の読み聞かせなどで、こどもたちは多くのことは獲得します。そのことは音を音として取り込んだ後、自然のにおいや日差し、空気などを織り交ぜながら肌感覚のある、実感のあることばとして、アウトプットしているのです。

も、対象物によって、さまざま

まな「きれい」があることを知り、こどもたちは「きれい」ということばを通じて、「美」という感覚の幅広さを実感しています。

「のぼる」「よーいこぼる」、「山のぼる」、「木のぼる」などがありますが、実際にいろいろな「のぼる」を体験すると、「のぼるにもいろいろな使われ方がある」ことを、自然と学んでいくのです。

ことばは、受け止める人の経験の違いによって感じ方やニュアンスが違います。豊富な「遊び」の経験は、こどもたちのことばに対する感性の受信機を育ててくれるでしょう。

う。こどもたちが将来、何でも「ビミョー」という表現で片

付けてしまわず、美しく豊かな日本語を後世に残してくれたいと願っています。

(ぶれいすくーる・ちゅーりっぷ＝広島市西区＝園長)



「お花の中に虫が!」「虫のおうちなのかな?」
バラをのぞき込むこどもたち (園提供)

体で感じた感覚を表現

ことばも遊びから

「アリスさんの巢のにおいがするね」、「ムカゴの味みたい!」、「泥水の袋がタツプタツプするよ」…。「ぶれいすくーる・ちゅーりっぷ」のこどもたちの会話です。においや味、音、「ザラザラ」「ヌルヌル」…のよ

ことばの広がりには、こんな会話からも、うかがえます。「青い空がきれいだね」。「白い花もきれいだね」。「きれい」ということばで

う。こどもたちが将来、何でも「ビミョー」という表現で片